

Road to Doctor



戦後70年を考える ～6月つどいに参加して～



6月27(土)～28日(日)の日程で、長崎を会場に医学生がつどいが行われました。正式名称は「民医連の医療と研修を考える医学生がつどい」。全国の医学生が、年4回、毎回テーマを決めて学び合う企画です。

今年で36年目になるつどいですが、2015年6月のテーマは「戦後70年を考える」。

1945年に第二次世界大戦が終戦を迎えてから70年。7月16日に日本の安全保障に関する「安全保障関連法案」が安倍政権のもとに衆議院で「強行採決」されました。この法案は、先日解釈改憲によって行使できるとされた集団的自衛権や日本の自衛隊の今後の活動範囲等についての具体的な運用を示すものとなっています。この法案は「戦争法案」として指摘されており、70年間不戦を誓ってきた日本が「戦争」に参加する可能性が高くなること、多くの憲法学者は「違憲」としての見解を示していますし、国民の多くが反対していることが各メディアの調査によってわかっています。

つどい1日目の企画はシンポジウムでした。シンポジストは被爆者である山田拓民氏(長崎原爆被災者協議会事務局長)、ジャーナリストの熊谷伸一郎氏(岩波書店、雑誌『世界』編集部)、反核医師の会学生部会初代代表の奥野理奈医師(東京・立川相互病院)の3名でした。

ジャーナリストの熊谷氏は、国民の意思に反して安全保障関連法案が推し進められていることを、民主主義の危機だと話しています。また、山田氏も、実際に戦争を経験したため、二度とこのようなことが起こって欲しくないという強い訴えをしていました。奥野医師は沖縄に住んでいるときに見た戦争の映像に衝撃を受け、このような人が増えて欲しくないということで反核活動をするようになったと話していました。

現政権が推し進める「安全保障関連法案」、みなさんはどう思いますか?



→ シンポジウムを聞いての様子



← シンポジスト(右から)山田氏、熊谷氏、奥野医師



→ 山田医師の講演の様子

← 井上医師の講演の様子

2日目は研修について学びました。最初に全員で東京・立川相互病院の山田医師の話をお聞きしました。以前の初期研修は、研修医の身分が保証されず、多くの問題点を抱えていた為、2002年に整備され、必修化されました。その経緯を分かりやすく説明していただきました。

次に低学年と高学年に分かれ、1～4年生の低学年は初期研修について学びました。埼玉・みさと健和病院の井上医師から、初期研修のときの様子や初期研修医がどのような思いを持って研修しているか、コミカルな話口調で話していただきました。「医学生から研修医になるイメージが浮かばず、構えてしまうかもしれないが、みんな一緒だから、心配せずに飛び込んで来れば大丈夫」というメッセージが印象的でした。

5、6年生の高学年は、後期研修について学びました。後期研修は専門医を取得するための期間で、必修ではありません。2017年からは専門医の制度が変わり、新専門医制度が始まります。今はまだ概要しかわかっておらず、今後詳細が発表される予定です。

医師になる上で、研修の期間は今後の医師人生を左右する非常に大事なものになります。みなさんも医学生になったら、いろいろ参加して一緒に考えてみませんか。



↑ 参加学生の集合写真(総勢85名)

みなさん、こんにちは。暑い日が続く、本格的に夏になりましたね。祭りの時期も近づいてきてワクワクしている人も居るのではないのでしょうか。楽しむのも大事ですが、水分はこまめにとって、熱中症に気を付けましょう。

さて、今回は6月に開催された「医学生がつどい」を紹介します。終戦から70年が経ちました。命を奪う戦争は、命を守る医療者と相反するものです。みなさんは戦争についてどう思いますか?感想、前号のMedi-Wingアンケート、どちらもお待ちしています。

もう一つの記事は、連載企画「私の通う大学紹介」の第3弾です。秋田大学に通う医師体験OGから、秋田大学の様子を紹介してもらいました。みなさんの進路を決める参考にしてくださいね。

私の通う大学紹介 第3弾 ～秋田大学医学部医学科3年生医師体験OGより～

①カリキュラム
秋田大学医学科のカリキュラムは毎年変更が加わり進化しています。とりあえず毎年変わっていないと思われる部分を紹介いたします。一年次の授業は大きく、教養と初年次ゼミの二種類に分かれます。

a) 教養…必修科目(生物・物理・化学など)と選択科目(哲学・心理学など)に分けられます。他学部の学生と一緒に受講する科目が多いです。

b) 初年次ゼミ…私が一年生だった二年前は、前期に胸痛について、後期に腹痛と頭痛について学びました。各学生に疾患が割り振られ、主に症状と鑑別診断についてプレゼンします。各プレゼンの最後に、紹介した疾患の患者に対する問診のロールプレイも行いました。

②学校生活、授業の様子、試験・レポートなど
一年次の時間割は自分で立てることができ、空きコマもあります。でも二年次以降の時間割は最初から決められており、基本的に8:50～17:10のフルコマです。たまに終了時間が前後することがあります。ちなみに秋大はGWが長いですが、秋大医学科は5/7～8もお休みで9連休でした!

③部活やサークルのこと
私は医学部女子バスケット部に所属しています。マネージャーです。基本的に週2回の練習で、大会前には追加練習が入って週4回になります。きちんと勉強と部活動を両立できるように配慮されています。大会も医学部バスケットのみで行われる公式戦に出場します(夏に行われる大会は医学科の学生しか出場できません)。



→ 秋田大学医学部キャンパス



← 大講義室

青森民医連奨学金制度

◆ 医学生奨学金制度

	特別奨学金	一般奨学金
入学金貸与	あり(1年次のみ)	なし
奨学金貸与額	20万円以内/月	10万円以内/月
定員	各学年5名	なし
返還免除の条件	卒業時に返還義務が生じますが青森民医連に勤務すると返還が免除されます	
	貸与期間の1.5倍	貸与期間の1.0倍

◆ 高卒生奨学金制度

	コース①	コース②
貸与額	10万円/月	20万円/月

青森民医連には「医学生奨学金制度」と「高卒生奨学金制度」の2つの奨学金制度があります。

● 医学生奨学金制度(右表上)は、日本全国の医学部(医学科)に在籍する医学生が対象です。返還義務がありますが、卒業後一定期間、青森民医連加盟の医療機関に勤務してもらうことで返還が免除されます。

● 高卒生奨学金制度(右表下)は、高校卒業後、医学部(医学科)への合格に向けて勉強している30歳までの方が対象です。貸与期間は3年まで。返還義務がありますが、医学部(医学科)合格後、医学生奨学金制度に移行し、青森民医連加盟の医療機関に勤務すると返還が免除されます。

どちらも時期・学年を問わず随時募集しています。詳細は、下記連絡先まで気軽にお問い合わせください。

